

佐賀市議会議員 自民さが たか ひろ

いなば 嵩広

ごあいさつ

今年は6月から35℃を超える厳しい暑さで夏を迎えました。従来、8月に開催されておりました佐賀市栄の国まつりが5月31日と6月1日に開催時期が変更され、この暑さに柔軟に対応する必要があると考えさせられました。日新校区においても、今年は日新まつりを10月の秋に開催を予定しております。何事においても「～はこういうものだ。」とするのではなく、時代の流れに対して柔軟に考えながら、挑戦を続けてまいります。今後も厳しい暑さが予想されます。無理をなさらず、お身体お大事にしてお過ごしてください。



佐賀市6月定例会のご報告

6月5日に開会し、6月25日に閉会しました
6月定例会は約9億円の補正予算を審議する議会となりました。その主なものは強い農業づくり総合支援事業、スポーツ交流施設整備支援事業、新型コロナウイルスワクチン接種経費となっております。また、西九州大学が佐賀市のキャンパス内に新学部を設置するにあたり、佐賀市として支援を行い、地元の学生の進学先の選択肢を増やすとともに、市内定着率を高める取り組みをはじめます。

令和7年度6月定例会当初予算 主な事業

大学機能強化支援事業(政策推進部) 補助上限額 約3億円(債務負担行為)
学校法人永原学園が西九州大学佐賀キャンパス内において計画している「健康データ科学部」の新設に対し支援を行うことにより、学生の地元における進学先の選択肢を増やし、若者の市内定着率の向上を図るとともに、若者が活躍するまちづくりを推進するための経費です。

スポーツ交流施設整備支援事業(地域振興部) 約2億6,600万円
SAGAアリーナをホームとしている佐賀バルナーズが佐賀市内に練習場を新設するにあたり、その整備費の一部を補助する経費です。この施設はバルナーズが練習に使用していない時は市民に開放することが予定されている他、災害時の避難所にも利用できるよう整備が予定されております。

一般質問 「学校体育施設開放のシステム化を！」

現在、市内公立小中学校のグラウンドや体育館は各学校において申請書を提出して、予約と利用をしております。この申請書の提出は利用者にとっても手続きが面倒であり、受理をする学校においても担当の事務員や先生の負担になっています。これをデジタルによってオンライン申し込みができるようになれば利用者と学校側にとって多くのメリットが期待されます。

1 **問** 学校施設開放をデジタルによってシステム化している自治体はあるか？

答 東京都品川区と神奈川県川崎市がシステム化に取り組んでいる。どちらの自治体も視察を行い調査を行なった。

2 **問** 本市は公民館や公共体育施設はオンラインでの予約が可能であるが、学校体育施設でも取り入れることはできないか？

答 技術的には可能である。しかしながら今までご利用頂いていた団体との調整が必要になってくることが考えられる。

3 **問** 利用者の便益や学校現場の負担軽減のためには早期の導入が必要と考えるが、本市の見解は？

答 システム化は利用者、学校現場においても負担軽減になると理解している。現在、公民館と公共体育施設のシステムの改修が予定されている。それと同時に導入できるよう進めていきたい。

その他の質問

- ・松原公園整備について
- ・観光業の経済波及効果の最大化について
- ・EBPMによる事業立案体制について

議案質疑をしました

令和7年6月定例会において議案質疑をしました。議案質疑とは本会議の場において、執行部から提出された議案に対して質疑を行うもので、委員会での質疑に比べると非常に重みのある質疑です。今回は西九州大学の新学部設置に対して佐賀市が行う補助について質疑をしました。

補助上限額 3億円の積算根拠は

いち学校法人に対して、これほどの補助を行う前例はありません。補助の財源は一般財源と言って佐賀市の税金、つまり我々の税金と地方交付税となっております。貴重な一般財源から補助を行うからには相応の根拠が必要だと考えます。今回、3億円（県1億・市2億）という巨額の補助を行うに当たって、その積算根拠はなんだったのでしょうか？

雇用奨励金を基に積算

積算根拠への答弁では企業誘致の補助メニューにある雇用奨励金を根拠に算出したと答弁がありました。雇用奨励金とは誘致した企業が佐賀市在住の従業員を雇用した際に一人につき50万円を交付するもので上限が従業員50人分と規定されています。今回は一学年で100人、学部全体で400人に50万円を乗じた金額で2億円というものでした。

佐賀市へのメリットは？

議案質疑の場において、雇用奨励金の上限は50人分までとされているので、積算根拠としては弱いのではないかと指摘をした上で、本市にとってのメリットは何なのか質疑をしたところ、400人の学生が佐賀市に滞留することでの経済効果と市内の学生の進学先選択肢の拡充、今後の社会課題となる高齢者福祉施策での連携等が期待できるとの答弁がありました。今後、答弁があったメリットを定量的に評価し、2億円という補助の効果がしっかりと最大化されたのかを注視してまいりたいと思います。私たちの税金が正しく使われたのかを評価するのは議会の大事な仕事の一つです。

佐賀市議会議員

たか ひろ
いなば 嵩広

〒840-0045 佐賀市西田代 2-1-9

☎ 0952-77-0836
080-3732-6929

WEB サイト

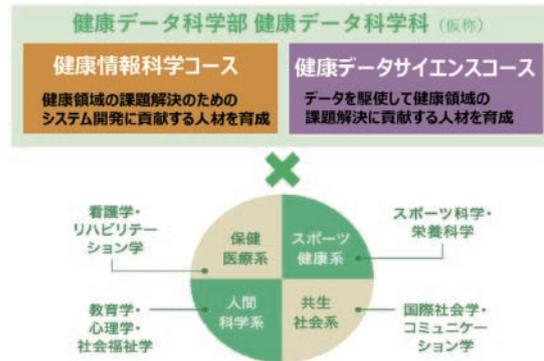


LINE



プロフィール

- ・1985年10月31日生まれ 東京都出身 成蹊大学法学部法律学科卒業。大学卒業後、リグナ株式会社というネット通販会社で経験を積む。
- ・その後、インテリア関係の商社、株式会社ジェイ・シータウン(主な取引先: 株式会社飯田産業、防衛省ほか)にて多くの業務に取り組む。
- ・佐賀市西田代出身の妻と結婚した事で、佐賀にご縁を頂き、佐賀で子育てをしたいと妻に相談をし、10年前に移住。12歳の長女と9歳の次女、6歳の長男の子育て真最中!
- ・掃除や洗濯、お皿洗いなどの家事が日課で、休日は料理を担当することも。得意料理はパスタ全般。趣味は読書、料理、ランニング(桜マラソン2度の参加&完走!)
- ・福祉教育委員会、広報広聴委員会、九州新幹線整備に関する調査特別委員会、議会運営等改革検討会、中部広域連合議会(介護・広域委員会)



西九州大学佐賀キャンパス内に新たに設置される新学部。西九州大学がこれまで取り組んできた福祉のノウハウにデータサイエンスを掛け合わせることで先進的な学部となることが期待されます。



新学部はキャンパス内に新設されることが予定されております。今回の新設は文部科学省の大学機能強化支援事業にも採択をされており、佐賀市としても注目の学部となっております。



今後、データサイエンスは重要性を増してきます。本市にとっても、この補助が市政発展に寄与するよう、注視してまいります。

